



本会議の必要性については、多くの方が必要であると回答していました。

合同カンファレンス終了時アンケート 3

【自由記載、抜粋】

- 臨床との、センターとの相互理解を深める事の大切さを理解できました。
- 他施設の緊急について認識、困っていることを知ることができ、院内で改善すべき点や良い点を知ることができた。
- 他病院、規模の違いで考え方、対応の違いがわかった。コミュニケーション(横のつながり)が大事と考える。
- 発注時に聞き取りたい必要なことをまとめた紙を作って欲しいと思っています。この場での意見が反映されることを願って..
- 供給体制がきついのには分かりました。ですが、病院への要望ばかりで日赤で改善できることはないか検討して下さい。

第15回神奈川県合同同種血液療法委員会

アンケート自由記載の一部を紹介します。臨床側と血液センターとの相互理解を深めることの大切さを理解できた。他施設の緊急について、認識、困っていることを知ることができ、院内で改善すべき点を知ることができた。他病院、規模の違いで考え方、対応の違いが分かった。医療機関同士のコミュニケーションが大切と考える。発注時に聞き取りたい内容をまとめた紙を作成してほしいや血液センターでも改善できることを検討してほしいなど、たくさんの感想を頂きました。

輸血用血液供給体制小委員会からの提案

- 不必要な至急・大至急の発注を過度に繰り返すことは血液センターの配送業務に支障をきたす
- 各医療機関で適正在庫数を再検討すること
- 日赤が提案した「定期便以外での発注について」を実行すること
- 日赤職員は緊急時に必要事項以上の情報を依頼せず、迅速な血液製剤配送に努めること

第15回神奈川県合同同種血液療法委員会

ここで小委員会からの提案です。不必要な至急・緊急の供給を過度に繰り返すこと

は、血液センターの配送業務に支障をきたします。各医療機関では適正在庫数を検討してみてもいいでしょうか。血液センターが提案した「定期便以外での発注について」の実践を、ぜひお願いいたします。血液センターは、医療機関では緊急時は電話連絡することさえままならないことがあります、そのような状況があることを理解していただき、必要以上の情報を聞こうとせず、迅速な血液製剤の配送をお願いいたします。

終わりに

- 引き続き医療機関と血液センターとの交流が出来るような場を作り、普段からコミュニケーションがとりやすい環境を作りたい
- 円滑な供給体制が構築できるように、医療機関どうしのコミュニケーションもとれるようにしたい
- このような活動での情報提供と情報共有が、各施設での血液製剤の有効利用につながることを期待する

第15回神奈川県合同同種血液療法委員会

最後になります。小委員会では引き続き、医療機関と血液センターが交流できるような場をつくり、普段からコミュニケーションが取りやすい環境をつくっていきたくと思っています。円滑な供給体制が構築されるためには、神奈川県内の全施設の理解と協力が重要であり、今後も医療機関同士のコミュニケーションも取れるようにしたいと思います。このような活動での情報提供と情報共有が、医療機関での血液製剤の有効利用につながることを期待します。

以上です。ご清聴ありがとうございました。

浜之上 佐々木先生、ありがとうございました。数年前から始まった小委員会の活動は、少しずつ成果を結んできていることと思います。配布資料にアンケート調査の結果が入ってますけど、これは配布のみで大丈夫でしょうか。

では、報告は以上にさせていただきますが、質疑応答をまとめてこの後させていただきます。よろしくお願いたします。